

緊縮財政の必要性を理解し共有すべき



国分寺・生活者ネットワーク 片畑 智子(所属3名・賛成)

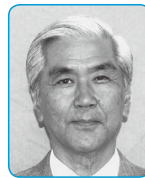
これまでの枠配分方式を見直し、ゼロベース部局積み上げによる予算編成であるが、PDC Aサイクルや行政評価のしくみも確立していない現状においては、本当に精査できたのか、はなはだ疑問である。結果的に、相変わらずの「あれもこれも」の積み上げにより、4億3千万円もの財源不足を生じた。「あれかこれか」という厳しい事業精査ができるレベルにはまだ至っていない中で市長の方針転換については、時期尚早であったと言わざるを得ない。

今も非常に厳しい社会情勢であるが、超高齢化がさらに進んでいく今後の方が、さらに厳しい状況になる。今からの備えとして、単年度の歳出はもちろん後年度の負担となる借金についても、でき得る限り抑えていくという意識を、職員は持つべきである。その危機感がなければ、市民が引き続き安心して暮らせる国分寺を維持していくことはできない。そのためにも、今後予測される歳出を賄えるだけの基金残高を試算した上で年次ごとの歳出上限額を定めていくという新たな財政計画の策定を求める。それがなければ、平成30年度に積まれる予定の約100億円もの基金も、あつという間に取り崩される。

次に、臨時財政対策債の発行については、これまで会派としては、一貫して反対してきた。その理由は、負担先送りによる後年度の財政硬直化、当該年度に在住する市民が享受した事業にかかったお金を将来の市民が負担することは不公平であるということ、足りなければ借ればいいという職員の意識を変革することなどを挙げてきた。しかしながら、今回、市長は、臨時財政対策債の発行にあたり、その財源を投入する事業を指定するとともに、配分する額までも明確にした。それによって、後年度に送られる負担の妥当性と、歳出抑制を掲げながらも、たとえ借金をしても今やるべき事業の必要性について理解することができた。行政は、現在のみならず将来の市民に対しても説明する責務がある。「単に足りないから借りた」という漠然とした理由では、後年度、そのお金を返済することになる市民に対する説明責任を果たすことはできない。臨時財政対策債の発行には反対の立場ではあるが、現在はもちろん将来の市民に対してもしっかりと説明でき得る、納得できる借入であると判断し、諒とする。

今後、超高齢化が進む中、行政サービスだけで市民生活の安定が図れる見通しは非常に厳しく、限られた市財政の中で、肥大化した行政サービスの仕分けが必ずいつかは必要になる。しかし、歳出抑制が必ずしも市民満足度の低下を招くわけではない。なぜならば、行政だけが市民生活を支えているわけではないからである。事業所や企業・教育機関や農家・NPOも含んだ市民団体など、多種多様な人たちの活動や日々の営みによって、この地域は支えられている。昨年の所信表明で市長が示した「国分寺版の新しい公共」を少しずつ形にしていくことで、このまちを構成する主体者同士がつながり合い、補い合い、新たな公共領域が隙間なく地域の中に広がっていくこと強く求めて賛成とする。

市民に伝えるべき内容は施政方針に明記を



無会派(社民党) 釜我 健二(賛成)

①今回の施政方針はコンパクト過ぎて、市民に伝えるべきいくつかの重要な内容が抜けている。今後は留意されたい。②井澤市長には「重大ミスを起こさない市政」が求められている。施政方針でその実現を市民に約束をすべきだった。③市長はアウトソーシングに慎重に対応する姿勢を示したが、ぜひ賢明な判断を求める。④臨時財政対策債の借り入れについては、受益と負担の公平化の観点から評価をする。⑤昨年大幅に削減された補助金が新年度に復活されたことは高く評価したい。⑥嘱託職員等非常勤職員の処遇が一部改善されることは歓迎する。今後さらに不公平感をなくす努力を求める。⑦市職員のメンタルの病気が増加している。市長以下全職員で協力して、職員の健康の維持向上に努力されたい。⑧被爆地広島に子どもたちを派遣する「ピースメッセンジャー」の充実を評価するが、所得の低い市民にも参加しやすくなる様な工夫をぜひ行ってほしい。⑨保育の全体構想に関連して、民間保育園の突然の閉園の際にどう保育を継続するのか、市は今もって実現可能な対策を確立していない。ならば公設公営の6園を残して、これをベースに対応策を確立すべきではないか。⑩「敬老会」は今年度の内容が好評だったので、これを基本にしつつ、何よりも安全第一で開催してほしい。《最後に》本予算委員会で市長は議会と正面から向き合い、自らの考えで方向性を見出す努力を示した。今後とも市長にはこの姿勢の堅持とミスのない行政の確立を求め、本予算に賛成する。

市民一人当たりの高齢者・児童福祉費が低い



無会派(無所属) 甲斐 よしと(反対)

財政規律を重んじた予算と言うが、その規律は文字にして定義は無いとの答弁だ。臨時財政対策債を8年ぶりに借りた理由は投資的な事業で将来の市民に供する借金だと言いつつも国民健康保険の繰り出しも含まれ、投資的経費ではなく屁理屈だ。臨時財政対策債は赤字財政補填債で特定財源債でない。私の議論で、新市長のもと黒塗りの高級セダンを530万円で買うということが明らかになった。古い発想としか思えない。施政方針に「市内の樹林地については市民共有の財産と考え市民からの寄附や土地の寄贈を受けて公有化を進めます」と言いながら寄附を受けた新町樹林地及び民間保護樹林地の樹木を56本も伐採し「緑の保護と推進に関する条例」にも反している。

市制50周年ぶん馬車は特命随契で見積り合わせも予算根拠も無く、翌年も3,500万円で馬車購入、厩舎の計画は驚愕だ。国分寺駅北口駐輪場も3ヶ月後には700台分の行方すら不明の無責任ぶりは史上ない失態だ。

24年度決算値にて、市民一人当りの行政コストは同規模の昭島市より高齢者福祉費は半分強、児童福祉費もそれに近く、大きな改善が必要であったはずだ。例えば高齢者生きがい交流事業

は本年から都の1/2補助金が交付されるから拡大させるチャンスだったが、指定管理化により、むしろ縮小だ。最近の市政は市民に御不便、影響を与えることに市民の声を反映する事なく、「御理解ください」ばかりだ。市民を諦めさせるだけの副市長以下職員の体質を改めさせよ。

政治にとって新しい風とは？



無会派(みんなの党) いとう 太郎(賛成)

前市政に於いて不適切と思われる会計処理が行われていました。国民健康保険の会計で累積債務は7.5億円もあり、井澤新市長は発覚してからすぐに会計処理を行い、結果平成25年度3月から5ヶ年に渡って税金を投入する対策を行いました。市長は他人の借金を肩代わりするとしたら、皆様にご理解して頂き易いと思います。私は行政のチェックを行う議会の一員として、問題を指摘や是正することが出来ず反省しています。

次に市長は施政方針の中でいじめ防止条例を作ると記載されていました。国の法律の施行が25年9月だった事を考えても中身が充分納得のいく条例が、26年3月に議会に議案として提案を受け、議会も事の重要性を鑑み丁寧な審議を行い、結果全員賛成で可決されました。私見ながら国分寺市は条例の作成に、何年もかかる条例がいくつもありました。条例は、中身はもちろん大切ですが、緊急に対応しなければならない案件は、スピードも大切だと思います。

又、予算案に対しての私の考えは、マイナスシーリング(例えば何%カット)という手法で複数年度行って来ましたが、重要な案件に予算がつかない状態でしたので、職員もやる気を無くした状況が続いていました。市長は逆転の発想で重要な政策から決めていき、その後優先順位を付けて事業を積み上げる手法にしました。

市役所は確実に変化がおきている事が感じられます。

意見書を可決

下記の意見書を可決し、関係機関に送付しました。
全文はホームページに掲載しています。

意見書第1号 容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書

容器包装リサイクル法は、リサイクルのための分別収集、選別保管を自治体で行い、リサイクルに必要な総費用のうち約8割を自治体が税金で賄う仕組みになっています。

しかし、事業者負担が少ないことから、容器包装を選択する事業者には、真剣に発生抑制や環境配慮設計に取り組もうとするインセンティブ(誘因)が働かず、環境によりリユース容器が減少し、リサイクルに適さない容器包装が多く使われているのが実情です。

については、容器包装リサイクル法の見直しに当たり、国会及び政府に対し、下記の事項を求めます。

1. 容器包装の拡大生産者責任を強化し、リサイクルの社会的コストを低減するため、分別収集・選別保管の費用負担のあり方について検討すること。